

# 太陽光発電とオール電化

林 敏 秋 (ワーカーズコープ エコテック)

## 電気は大変高級なエネルギー

太陽光発電は相変わらず好調な販売成績らしい。その殆どは訪問販売で、オール電化機器の付属品の扱いで販売されているようだ。電力会社が旗を振って、ハウスメーカー、工務店、電気機器販売業者、太陽光発電設置業者すべてがオール電化を推進し、太陽光発電の普及に「貢献」している。

「クリーン」、「安全」、「安い」の謳い文句の元に消費者は、このオール電化ブームに何の疑いもなく迎合している。本当にクリーンで安全なのか。冷静に考えてみる必要がある。そもそも電気というエネルギーは、大変高級なエネルギー源である。原子力発電や火力発電を例にとりて考えてみると、100のエネルギーを投入して、電気になるのはせいぜい35～40%である。じゃ、残りのエネルギーはどこへ行っているのかというと、送電ロスが5%程度あるが、ほとんどは発電時に排熱として大気中に放熱しているのである。

原発の近海の魚が異常に大きいという話は有名である。これは原発の温排水が影響しているらしい。私達は、オール電化住宅にすんでクリーンでエコロジーだと思込まされているが、何とおめでたいことか。発電している元までは誰も想像しないのである。

## オール電化推奨のからくり

では、エネルギーの浪費ともいえるオール電化を何故、電力会社は推進するのか。誰でも抱くもつともな疑問である。それは電気が余っているからだ。この言い方は少し乱暴だ。電気の需要と供給にアンバランスがあるからだという方が正確だ。つまり電気の需要には大きな波がある。昼間と夜間、夏期と冬期で使う量がかなり違う。だが電力会社は電気事業

法で需要があれば供給しなければならないと義務づけられている。そのために最大需要電力量（ピーク）を確保しておく必要がある。

だが、使わないときにはいらぬ発電機は止めておけばうまく調整できるのではないかと誰もが考える。しかし、現在日本の発電電力量の34%は原発である。原発は出力調整が簡単にはできない。日本の電気の需要のピークとボトムの差はかなり大きい。ボトムの需要がピーク時の45%になることもある。電力会社はいろいろ工夫して出力調整しているが、出力調整が困難な原発がベース電源となっているため夜間などはかなり電力が余る。さらにやっかいなことには余った電気はどこかへ捨てることができないのだ。揚水発電所などという形で貯めたりしているが、焼け石に水だ。結局、一般市民に無理矢理使ってもらうしかなくなる。時間帯別料金や「はぴeプラン」など優遇策をとって「どんどん電気を使い」という形になる。オール電化が推進される所以である。

## 将来世代を視野に入れた

### エネルギー源の選択を

私はガス会社の回し者ではないが、エネルギー多元化の時代にあえて電気のみでエネルギーを統一しようという考えには同調できない。時代遅れの技術となった原発が日本でも遠くない将来に全廃されると思うが、その時オール電化住宅が過去の遺物として冷ややかにみられる時代がやってくるかもしれない。

もし、これからオール電化を導入しようとしている方がおられるとしたら、是非お考えいただきたい。目先のことに目を奪われずに、想像力を働かせ、将来世代のことを考えてエネルギーの消費を实践されることを。